

画質、AFが優秀でした!

15万円前後



キヤノン 一眼レフ
EOS 6D Mark II 83点
ボディ実勢価格:13万3526円

高い基礎性能と操作感が従来の6Dを大きく超えて5D Mark IVの弟機としての性能を十分に備えたモデルに仕上がっている上レンズも豊富



ニコン 一眼レフ
D500 82点
ボディ実勢価格:14万6627円

APS-C最強のAF性能と画質を両立したモデル。フルサイズを必要としない一眼レフでは最高のパフォーマンスを発揮します

10万円前後



キヤノン 一眼レフ
EOS Kiss X10i 77点
ボディ実勢価格:11万5500円

総合的なバランスが非常に良好で静止画でも動画でもライブビューでも安定したAFを実感できます。操作系が明快なので初心者でも扱えるでしょう



富士フイルム ミラーレス
X-T30 79.5点
ボディ実勢価格:9万1000円

小型モデルとして十分すぎる性能を持っていますがダイヤルが多い割にあまりにも小さいのと操作系になれが必要でしょう



ニコン 一眼レフ
Z50 77.5点
ボディ実勢価格:11万6270円

高い防塵防滴性能と高い操作性、小型のボディ、高画質まで実現したモデル。オートフォーカス(AF)が弱点なので風景や天体写真向けです



ソニー ミラーレス
a6400 79.5点
ボディ実勢価格:10万7591円

APS-Cクラスの新機種として流石の安定感を感じるモデル。AFの安定感が従来機より向上。ボタン操作のリアクションが良く扱いやすいです

実勢価格の割に テストで好成绩! コスパ優秀 カメラ

今回のテストではコスパというポイントは外してはいますが購入という点で考えるコスパは見逃せません。そこでコスパ重視の方はぜひこれらの機種をチェックしていただいで触ってみたいだけだと最適な一台が見つかるのではないのでしょうか。いずれの機種も値段が見たら高性能です!

5万円前後



オリンパス ミラーレス
OM-D E-M10 Mark III 77点
ボディ実勢価格:4万5090円

4万円台ということ考えたら驚異的な性能と操作性、手ぶれ補正を持ったモデルだと言えます。センサーサイズと予算がOKなら推奨

手ブレ補正機能の効き具合やファインダー防塵防滴やバッテリーの持ち具合に加えて4K動画やWi-Fi、液晶の可動域やタッチパネルの機能や縦位置グリップやそのブースト性能などをチェックしています。サブ液晶やサブサブ液晶、便利な範囲内のダイヤルの追加なども加点の対象としてチェックしています

機能性
20点

ボディ内手ブレ補正や
スマホ連携機能



手ブレ補正の総合的な効き具合やwi-fi機能などの利便性と撮影に重要な機能を重点的に確認

防塵防滴などの耐候性も
重要な機能です



屋外で使うシーンが多いカメラは防塵防滴やバッテリー持ちなども重要なポイントになります

機能性の一部ではありますが被写体が見えるか追えるかというのは非常に重要なポイントなのでより広く、より綺麗に見えるかどうか、アイカップの作りは適正かカスタム可能か、そして動体を追尾した時の見栄えの安定感や暗所での確認のしやすさ、モニターでの色再現や日光で見づらくならないかなどを比較しています

**ファインダー
モニター**
20点

自然な色再現や屋外での
見やすさをチェック



モニターやファインダーの色の再現性や精細感に加えて日中の液晶の見やすさなどもチェック

「連写中に被写体追いやすいか」を
重点的にチェック



「撮れるかどうか」を左右する連写追尾中の応答性や安定性は第一のポイントとして重視

ダイヤルやボタン配置、それぞれのリアクションに加えてタッチパネルを併用した場合の使い勝手やファンクションを活用した際に使い勝手がどう向上するかなど様々な面からチェックして比較しています。しかし得点より手に馴染む機種などもあるかと思しますのでぜひ一度実際に触ってほしいと思います。

操作性
20点

タッチ操作の使い心地も
評価対象です



タッチパネルをボタンやダイヤルと併用して的確な位置や並びになっているかなどもチェック

使いこなすに「慣れが必要」な
操作系はちょっと……



複数ダイヤルによるコントロールは慣れればは推奨できますが複雑すぎないかも検討しています

メーカーがハイスベックを謳っていても実写してみると疑問が生じることもあります。そこで、大手カメラメーカーで性能テストに携わっていた経験もある写真家の園部大輔氏が性能や画質の採点を担当。操作性、ファイン

ダーとモニター、機能性、AF(オートフォーカス)、画質の5項目をそれぞれ20点満点で採点。基本的に各項目とも15点が2020年現在のカメラとしての合格ラインと考えてください。

このところミラーレスばかりが目立っていますが、得点をつけてみると大きなボディだからこその操作性の良さや動体追尾AFの安定性など一眼レフの実戦性能の高さが見えてきたのも興味深いと言えます。

テストをしました



テスト担当: 山岳写真家 園部大輔氏
写真家/イラストレーター。著書「絶景山岳写真入門」など。カメラメーカーで性能比較に従事した経験もある